


百人一首 (うたばんごう 歌番号: 16 ~ 20)

<p>わびぬれば いまはた同じ 難波なる みをつくしても 逢はむとぞ思ふ もとよしんのう 元良親王</p> 	<p>難波瀉 短き蘆の ふしの間も 逢はでこの世を 過ぐしてよとや いせ 伊勢</p> 	<p>住の江の 岸に寄る波 よるさへや ゆめのかよ 夢の通ひ路 人目よくらむ ふじわらのとしゆきあそん 藤原敏行朝臣</p> 	<p>ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは ありわらのなりひらあそん 在原業平朝臣</p> 	<p>立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば いまかえ 今帰り来む ちゅうなごんゆきひら 中納言行平</p> 
<p>みをつくし てもあわん とぞおもう</p>	<p>あわでこの よをすぐし てよとや</p>	<p>ゆめのかよ いじひとめ よくらん</p>	<p>からくれな いにみずく くるとは</p>	<p>まつとしき かばいまか えりこん</p>